

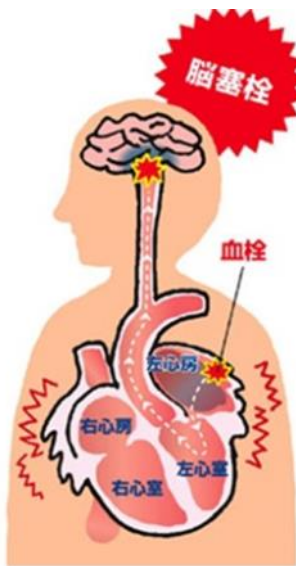
ふれあいひろば

[患者とともにある全人的医療]

心臓の左心耳（さしんじ）に注目！「左心耳切除」で脳梗塞予防

心臓血管外科部長 中澤聡

心房細動という不整脈が脳梗塞を引き起こすことはよく知られています。これは心臓の中にできた血栓（血の塊）が脳に飛んで血管を詰まらせるためです。心源性脳梗塞といわれ、大きい血栓が飛ぶため症状は重篤です。



心臓内の血栓は、ほぼ全て左心耳（さしんじ）に発生します。左心耳は、左心房から突き出した袋状の器官で、心臓と同様に拡張と収縮を繰り返しています。

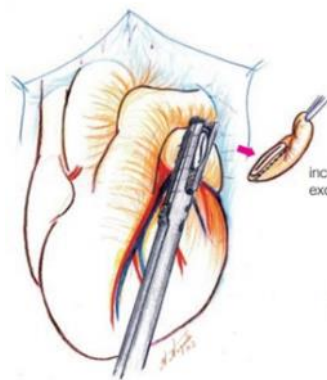
心房細動になると、心臓の上部（心房）が震えるような動きになり、左心耳

内に血流がよどみます。よどみが続くと血栓が形成され、ある時に血栓がはがれて脳の血管に飛んで脳梗塞を起こします。

予防には抗凝固療法という内服治療が有効です。ワルファリン（ワーファリン）が長く使われてきましたが、最近は用量調節不要で納豆などの食べ物の影響を受けない新薬（DOAC）が開発され、より簡便安全に治療できるようになりました。

抗凝固療法は血を固まりにくくすることで血液が左心耳内によどんでも血栓ができにくくなる治療です。それに対し、血栓形成の母地である左心耳を無くしてしまおうというのが左心耳切除という治療です。

手術的に切除したり結紮（けっさつ）したりする方法がありますが、当院では自動縫合器を用いてより安全確実に切除しています。最近では専用のクリップも開発され使用できるようになりました。



ただし、本格的な開胸手術が必要なため、現在は弁膜症手術や冠動脈バイパス術などの心臓手術の際に同時に切除しています。必要に応じて心房細動を治す手術（メイズ手術）も行います。

左心耳切除に要する時間は数分で、このために手術時間が延長することはありません。

近年、カテーテル治療で心臓内面から左心耳を閉鎖する方法が開発されており、閉鎖後は抗凝固療法の中止も可能です。しかし、安全性や費用などの問題があり日本国内での使用は延期されていました。しかし、ようやく施設限定ながら国内での使用が許可され、近々保険診療に採用される見込みです。

日本の心房細動人口は100万人超といわれており、高齢化の進行でさらなる増加は確実です。脳梗塞予防が重要で、新薬DOACで予防効果は向上しましたが、脳出血や消化管出血の危険性、認知症で服薬困難などの問題が付きまといまいます。左心耳切除や閉鎖によって、抗凝固療法が中止できる場合もあることを知っていただければ幸いです。

診療技術科の最近のトピック「公認心理師をご存じですか」

診療技術科 公認心理師・臨床心理士 竹内深雪

海外ドラマを見ていると、登場人物が「セラピーに通う」などと言い、カウンセラーと話すことが身近な行為のように感じられることがあります。

一方、日本では、心の問題で困っても、そのことを相談する以前にまず「どこへ、どんなふうに相談に行ったらいいのか」という悩みから始まることが多い気がします。

カウンセラーという職種も、何をしているのかわかるようでわからず得体の知れない部分があるとお感じの方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

カウンセラーとは一般的には「心の問題の専門家」のことを指し、「臨床心理士」「産業カウンセラー」「学校心理士」等の資格を持つ者がその業務を担当しています。

しかし実は、これらの資格は全て民間資格です。驚かれるかもしれませんが、これまで日本には心理職の国家資格はありませんでした。

「公認心理師」は2015年9月の公認心理師法成立・2017年9月の同法施行を経て誕生した、**国内初の心理職の国家資格**です。

第1回公認心理師試験は2018年に行われ、その合格者は全国で28,574人。新潟県では347人でした。

その業務については、公認心理師法に、

保健医療、福祉、教育その他の分野において、専門的知識及び技術をもって、

1. 心理に関する支援を要する者の心理状態を観察し、その結果を分析する

2. 心理に関する支援を要する者に対し、その心理に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行う

3. 心理に関する支援を要する者の関係者に対し、その相談に応じ、助言、指導その他の援助を行う

4. 心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供を行う

とあり、心理支援が必要な人だけでなく、国民全体の心の健康保持をも目的として業務を行うよう定められていることがわかります。また、公認心理師法には、秘密保持や資質の向上等についての法的義務も明記されています。

公認心理師法は法律ですので、厚生労働省のウェブサイトなどから誰でも知ることができます。今まではよくわからない面もあった「心の問題の専門家」の業務や質・義務などが広く認識され、そういった専門家を多くの人が安心して使える社会になってほしいという思いが法成立の背景にはあります。

まだ生まれたての資格で、「臨床心理士」等以前からの職名で業務を行っている者も多いですが、人々の心の健康を支えるため「公認心理師」がこれまでの心理職以上に役立って行けるよう資格取得者は日々研鑽に励んでいます。

当院のカウンセリングルームの様子（箱庭療法）



産婦人科内視鏡手術の歴史

婦人科 森川 香子

「キズの小さい手術」「お腹を切らない手術」として、内視鏡手術は普及しました。

日本の内視鏡手術の先駆けは、子宮の中を観察する子宮鏡検査でした。

手術としては1992年から腹腔鏡下胆嚢摘出術が行われるようになり、今では消化器科、泌尿器科、胸部外科、小児外科など様々な分野で行われています。

産婦人科では子宮鏡手術の他に卵管鏡・腹腔鏡・胎児鏡手術がおこなわれています。

ここでは、腹腔鏡手術についての話題を提供します。

婦人科腹腔鏡手術は、不妊症の検査の一環として始まったため、病変を取り除いて卵巣を温存する術式（＝子宮内膜症や卵巣のう腫などの卵巣の手術）が一般的となりました。

その後、子宮へと適応はひろがりました。病状にもよりますが卵巣や卵管・子宮の良性の病気は、今ではその多くが腹腔鏡手術の適応になります。

当院でも多くの方が腹腔鏡手術を受けていて、約6日間の入院となります。約10日間の入院となる開腹手術よりも、早く社会復帰をされています。

「婦人科がん」に対する腹腔鏡手術は2014年に初期の子宮体がん・2018年には子宮頸がんが腹腔鏡手術の適応となりました。

いずれも基準を満たした病院（新潟市内では新潟大学医歯学総合病院）で、手術を行うことができます。

卵巣がんは今でも開腹手術が標準手術となります。しかし、良性か悪性かの診断が難しい症例では病変の一部を検査するために、腹腔鏡手術がおこなわれることもあります。

新しい分野の腹腔鏡手術も始まっています。骨盤臓器脱は腔から子宮や膀胱・腸が腔の壁と一緒にでてきてしまう状態です。外陰部の違和感や尿失禁などの不快な症状がでます。色々な治療法がありますが、腔を引っ張り上げて骨盤の骨の一つである仙骨に腔を固定する仙骨腔固定術も腹腔鏡で行えるようになりました。

術者が3Dの画面をみながら遠隔操作で手術ができるロボット支援下手術も婦人科でできるようになりました。術者の負担が少ない一方、良性疾患に関しては手術時間が長く・費用がかかる、子宮頸がんに関しては術後の予後についてさらに検討が必要という意見もあり、一般的になるにはもう少し時間がかかりそうです。

別表に腹腔鏡手術ができる婦人科の病気を示しました。同じ病気でも病変の状態によっては腹腔鏡手術ができないこともあります。詳しくは婦人科担当医にご相談ください。

別表 婦人科腹腔鏡手術の適応疾患

子宮筋腫
卵巣腫瘍（良性）
子宮内膜症
多嚢胞性卵巣
卵管腫瘍・卵管留水腫
異所性妊娠
腔欠損症
骨盤臓器脱（※ 認められた施設に限る）
子宮頸がん（※ 認められた施設に限る）
子宮体がん（※ 認められた施設に限る）

新潟市民病院における就労支援 ～病気になっても自分らしくいられるために～

患者総合支援センタースワンプラザ
がん診療支援室 医療福祉相談員 小林 朝美

がんなどのご病気となられても、自分らしくいられること。患者さんがご病気と向き合い、歩いていくにあたり、とても大事なことですよね。なかには、働くことを通し、自分らしくありたいと考える患者さんもおられるのではないかと思います。仕事に対する価値観は人それぞれではありますが、患者さん一人ひとりがその人らしい生活、働き方ができることが何よりではないでしょうか？

新潟市民病院では、ハローワーク新潟及び、新潟産業保健総合支援センターと連携し、がん患者さんなど定期的な通院や治療が必要な方への就労支援を行っています。また以下の通り、新潟市民病院で出張相談も実施しています。

出張相談においては、必要時、我々相談員が医療情報を確認するなど間に入ることで、その人らしい働き方を医療面もふまえて支援していきます。いずれも相談は無料です。

ハローワーク新潟 出張相談

→自分の体調に見合った就労先を探したい、転職しようか迷っているという方に

◆ハローワーク新潟 長期療養者就職相談窓口（専門援助部門内）の就職支援ナビゲーターが患者さんの相談に応じます。

（※長期療養者就職相談窓口とは…がんなどのご病気を抱える方に対し、通院・治療状況や体調面で配慮を要する点等をふまえて、職業紹介をしている専門の窓口です。）

◆出張相談は原則予約制です。ご希望の方は事前の予約をお願いします。

※当日の予約状況により、予約なしでも相談が可能な場合もあります。

対象者：当院の入院・外来患者さんで、がん、肝炎、糖尿病等の疾病により、長期にわたる治療を受けながら就職を希望する方（対象となるかどうかについてはお気軽にご相談ください）

開催日時：毎月第2水曜日・第4火曜日 13:00～16:00（病院休診日を除く）

開催場所：新潟市民病院 1階10番窓口 がん相談支援センター（患者総合支援センタースワンプラザ内）

予約・お問い合わせ先：新潟市民病院 がん相談支援センター 025-281-5151(内線：1718)

新潟産業保健総合支援センター 出張相談

→現在の職場への職場復帰・就労継続に不安があるという方に

◆新潟産業保健総合支援センターの「両立支援促進員」が患者さんの相談に応じます。

（※「両立支援促進員」とは…社会保険労務士等の有資格者で、患者さん、病院、職場の3者の間に入って情報のやりとりや共有を図ることで、治療と仕事の両立支援を行います。）

◆出張相談は予約制です。ご希望の方は事前の予約をお願いします。

対象者：当院の入院・外来患者さん（がん以外のご病気の方も相談可能です）

開催日時：患者さんの希望に応じて随時調整（病院休診日を除く）

開催場所：新潟市民病院 1階10番窓口 がん相談支援センター（患者総合支援センタースワンプラザ内）

予約・お問い合わせ先：新潟市民病院 がん相談支援センター 025-281-5151(内線：1718)

当院のホームページにも、バックナンバーを掲載しています。
「新潟市民病院 ふれあい広場」と検索してみてください！

発行元：新潟市民病院 広報委員会
新潟市中央区鐘木463番地7 TEL 025-281-5151

～編集後記～

涼しかった梅雨も終わり、いよいよ夏本番です。外を歩いていると自分が子供だった頃よりも、確かに暑いような気がします。地球温暖化が心配です。(A)